

日本港湾経済学会年報

港湾経済研究

臨海部再開発と港湾

NO.25

1987

日本港湾経済学会編

序（『学会年報』25号をむかえて）

日本港湾経済学会会長 北 見 俊 郎

日本港湾経済学会年報の「港湾経済研究」も本年度で第25号をむかえることができました。学会発足と同時に「学会誌」刊行の計画がもたれ、昭和38年に創刊号が誕生しました。それはタイプ印刷・ザラ紙で本文156頁、学会設立趣意書、会則、会計、名簿等の資料をふくめても170余頁のささやかなものでした。それから25年間、営々としてたゆむことなく学会活動が続けられ、「年報」も幾度か刊行の危機に面しながらも見事に成長を遂げてきました。この25巻の「年報」は、そのまま学会活動の貴重な成果と記録であり、近年においては国内のみならず国際的にも「評価」が与えられていることはよろこびに耐えません。

この「港湾経済研究」が一貫して刊行されてきたかげには、法人・正会員ご一同をはじめ、今年度第26回全国大会開催地の清水港関係者各位をふくめ、毎年の開催地における多くの方々、その他学会の発展を助けて下さったの方々、多忙の中を編集の労をとられた事務局幹事や、誠意をもって印刷をひきうけて下さった文化印刷㈱等多くの方々のおかげと心からお礼を申し上げる次第です。

この記念すべき本年度の「港湾経済研究」№25は、今秋の清水港大会における共通論題「臨海部再開発と港湾」と各位の自由論題の玉稿を改めて世に問うものであります。この一卷もまた「学会年報」史に貴重な一石を投じ、学会本来の目的を達する大きな役割を担ってくれることと祈らざるを得ません。

終りに、本学会の活動のますますの盛んなること、「年報」のいよいよ充実すること、学会の社会的使命が達成されること、会員および関係各位のご健勝を祈ってやみません。

（昭和62年秋）

目 次

序	北 見 俊 郎
---	---------

研 究

共通論題

臨海部再開発に関する考察	鈴 木 暁 (1)
ウォーターフロント開発における都市と港湾	横 内 憲 久 (14)
港湾の倉庫空間を活用した臨海部の活性化	金 井 萬 造 (29)
	為 国 豊 治
ゲーム理論による港湾再開発跡地の機能立地モデル	黒 田 勝 彦 (45)
臨海部再開発の政策基調の変化	木 村 武 彦 (63)

自由論題

国際複合運送の進展に対する港の対応について	宮 田 騰 宏 (80)
機械化と日本の港湾労働	クワンシー・チェイ・アモアーベン (93)
港湾の活性化に果たす商社の役割	遠 藤 幸 子 (116)
清水港の発展に見る企業者活動の展開と企業経営	安 彦 正 一 (130)
韓国における港湾経営戦略	金 在 河 (149)
環黄海経済圏構想と港湾について	中 本 昭 夫 (171)
中国古代水運と港湾について	高 見 玄一郎 (183)

書 評

山上徹著『交通サービスと港』	大 浜 慶 和 (201)
Alan E. Branch	
Elements of Port Operation and Management	山 上 徹 (206)
ダグラス・M・レン著、横内憲久監訳	
『都市のウォーターフロント開発』	富 田 功 (211)

学会記事

第25回全国大会（東京港）概要	(217)
シンポジウム概要	(218)
部会活動状況他	(229)
編集後記	(233)